

『春日権現験記絵』（第12巻 第三段）

この場面では、東大寺から訪れる熱心な僧、恵珍（1118-1169）の夢が描かれています。彼は毎日春日大社を訪れていました。彼の夢の中で、恵珍は春日大明神の第3の神、地藏菩薩としての姿をしたものを見ます。地藏菩薩は牛車に乗っています。牛車の後ろには黄色い袈裟を着た神聖なる供奉者や多くの鹿が続いており、これによって動物たちと春日大明神との関連性が強調されています。地藏菩薩が神聖な鳥居を通り抜けるとき、彼は恵珍に、恵珍の献身は十分であり、一時的に他のところへ発つが、最終的には戻ることを約束すると告げています。絵巻物でよく見られる絵画の手法である霞（かすみ）が木々の周りに集まり、シーンに奥行きを加えています。